

「暮らしの安全モデル校指定事業」事業実施報告書

モデル校指定校名 : 可児市立兼山小学校

1. 事業の実施期間 指定を受けた日から平成31年 3月 11日

2. 学校の概要

学校名	可児市立兼山小学校
学級数	通常学級：各学年6学級、特別支援学級：1学級
児童生徒数	全児童数：60人（平成31年1月31日現在）
URL	http://www.school.city.kani.gifu.jp/kaneyama

3. 調査研究のテーマ

『安全安心な生活を創造する子どもの育成』

児童が自分の日々の生活環境に関心をもち、安全で安心できる環境を追究し、より良い生活ができる自立した消費者となるための教科学習並びに特別活動の横断的指導の在り方を追究する

4. 調査研究の内容等

(1) 『くらしとお金』質問紙作成

今まで、児童のお金に対する意識の実態を把握したことがなかったため、質問紙により実態を把握した。その結果、5年生12人中9名の児童がお小遣いをもらっており、お金の有効な使い方を自分で考える機会があることがわかった。しかし、お金を使う際に、お金の使い方を考えていないと答えた児童もあり、消費者としての自覚が希薄であるという実態もわかった。本調査の結果を参考にして『兼山消費者教育プログラム』を作成した。

(2) 『兼山消費者教育プログラム』作成

消費者教育に求められる「安全」「契約・取引」「情報」「環境」の4領域を意識した教育プログラムを社会科と家庭科、特別支援学級の自立活動で実践した。

①社会科における消費者教育

- 2年生の生活科、3年生の社会科では、地域にある店舗を見学し、生産や販売の仕事について関心をもち、それらの仕事が地域の人々の生活と密接に関わっていることや消費者の多様な願いを踏まえて売り上げを高める工夫をしていることを学んだ。
- 5年生の社会科の授業で、自動車の生産について、製造から販売までのラインを見学させ、製品と暮らしの関係を考えさせるためのプログラムとして位置づけた。特に、消費者生活の求められる商品を選ぶポイントの一つである「環境」に視点を当てた授業を展開するため、トヨタ自動車の工場見学が必要と考えた。しかし、残念なことに、当日、北海道地震の影響で工場のラインが停止し、博物館での説明と見学で終わってしまった。



②家庭科における消費者教育

○5年生家庭科では、買物の仕組みや消費者の役割、物や金銭の大切さや計画的な使い方、購入時の情報収集と処理について学べるようにした。ちょうど特別教室の老朽化したカーテンの取り換えという機会があったので、これを利用して、子ども達が最適なカーテン購入を学校事務職員のアドバイスを受けながら行うという学習を位置付けた。すると児童は、特別教室の機能特性を踏まえたカーテンをカタログから選ぶことができ、適切なカーテンを購入することができた。この体験活動を活かし、目的に合った計画的な買い物ができるように、児童一人一人が、今自分が購入したいと思っているものについて考える授業を実施した。



③特別支援自立活動

考えて購入することや金銭の扱い方などを「えんぴつやさん」の活動を通して学習した。消費者という視点からだけではなく、販売する側に立った視点で「契約・取引」について考えることができた。



(3) 学校事務職員による指導

学校事務職員の絵本の読み聞かせにより、学校や家庭生活において『もったいない』をしていないか振り返らせた。また、高学年の児童に対しては、学校で金銭を取扱い、物資の購入や管理を行うことの実際について話を聞き、身近な消費生活や環境整備について考えた。



(4) 地域へ消費者教育を広げる活動

高齢者の消費者トラブルが多いという実態から、参観日に催した『喫茶兼山』でポスターセッションを行い、トラブルの回避を促した。



時 期	内 容	備 考
3月12日	第1回研究調査委員会開催（校内、教職員5名） 1) 研究計画と見通しについて 2) 意識調査作成について協議する。	参加者5名
4月20日	意識調査実施（5年生）	参加者5名
5月7日	第2回研究調査委員会（校内、教職員5名） 1) 社会科、家庭科、特別支援教育における消費者教育の進め方 2) 調査結果について協議する。	
6月13日	全校朝会：学校事務職員による講話	

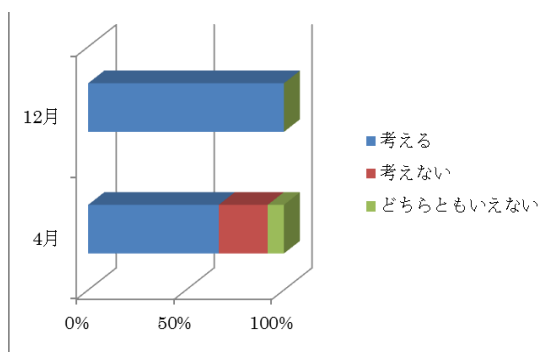
9月10日	社会科発展授業『車の製造から販売まで&環境に優しい商品開発』	5年生家庭科授業 参加者1名 岡山市立平井小学校
11月10日	家族参観日『喫茶兼山』で地域へ消費者教育を広げる	
11月22日	特別教室のカーテン納入	
11月30日	全国家庭科研究大会（岡山）参加 『えんぴつやさん』活動（特別支援学級）	

5 調査研究の成果と課題

児童にとって、カーテン購入は、初めて自分たちで考えて高額な物品を購入するという貴重な経験となった。社会科、家庭科の授業で実践した「安全」「契約・取引」「情報」「環境」の4領域を意識した教育プログラムによって、物品購入時に意識すべきことについての学びにつながった。また、質問紙調査で「お金を使う際に使い方を良く考えていない」と回答した児童が、プログラム終了後には、「買いたい商品を購入する際には、性能や値段、長持ちするかどうか、環境に優しいか等をインターネットや人に尋ねて購入したい」という意識に変容した。5年生の児童全員が、「お金の使い方についてよく考えるようになった」と回答した。

岡山県で開催された小学校家庭科教育研究大会では、5年生の授業を中心に参観した。消費者としての自覚を促す効果的な授業が行われており、消費者教育が、よりよい生活を願い、考え、実践する子供の育成に大切な教育であることをあらためて実感した。ぜひ参考にして、より充実した『兼山消費者教育プログラム』を推進していくことを今後の課題としたい。

◆お金を使う時は、よく考えて使いますか



購入したカーテンの前で(5年生)